

CONTENTS

文化の交差点 青木 保・文化庁長官対談 第2回 ゲスト 若杉 弘さん●新国立劇場オペラ芸術監督

日本のオペラを育てる4

長官コラム 青木保のカフェ・アオキ8

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート66	
東北歴史博物館(宮城県).....22	
芸術文化の風 30	
アジア・オーケストラ・ウィーク(小倉信宏).....23	
著作権Q&A 『著作権なるほど質問箱』から 30	
インターネットと著作権 その1.....24	
言葉を見つめて 6	
言葉の記録を残す25	
伝達地区を見守る人々 伝達歳時記 42	
川越一番街 街路灯建て替えの取組(埼玉県川越市)26	
天然記念物の保護管理の現状 6	
千屋断層の保存と活用(秋田県仙北郡美郷町)28	
広げよう「文化力」の輪! 18	
「芸術文化立県ひょうご」を目指して30	
こどもの文化体験 6	
出雲芸術アカデミー(島根県出雲市)31	
日本の伝統美と技を守る人々 重要無形文化財保持者編 15	
田島 博(雅号 田島比呂子)(友禅)32	
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 54	
「銅人形」にみる江戸の科学技術33	
祭り歳時記 伝承を支える人々 18	
玉祖神社の占手相撲(山口県防府市)34	
文化交流使の活動報告 34	
一つの伝統を理解してもらうため	
(寺井 栄・能楽師(能楽観世流シテ方))35	
文化でまちづくり 明日への文化振興ビジョン 6	
福島県文化振興基本計画36	
近代建築のある風景 活用の最前線 3	
のっぺらぼうな都市にならないために38	
文化財の新指定(美術工芸品関係—2)39	
工芸技術記録映画上映会40	
文化庁舞台芸術創作奨励賞作品募集40	
京都国立近代美術館	
カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠41	
東京国立近代美術館 フィルムセンター	
日印交流年 インド映画の輝き42	
東京国立博物館	
大徳川展43	
九州国立博物館	
親鸞聖人750回大遠忌記念 本願寺展 親鸞と仏教伝来の道...44	

文化庁ニュース

イベント案内

世界遺産への登録推進のための文化庁の取組	文化庁提言
「石見銀山遺跡とその文化的景観」の世界遺産登録までの道のり	寄稿
「石見銀山遺跡とその文化的景観」の世界遺産一覧表記載	報告
第三一回世界遺産委員会の結果	施策紹介
世界遺産の推薦・登録の推進のために	
文化財部記念物課	文化財部記念物課
19	16
岩本健吾	和田謙一
10	14
本中 眞	
12	

特集 世界遺産への文化遺産の登録の推進

今月の表紙

石見銀山遺跡とその文化的景観(空撮)

新国立劇場スポットライト45

10月の国立劇場46

芸術文化振興基金ニュース47

題字デザイン 桑山弥三郎



文化の交差点

青木 保・文化庁長官対談

第2回●ゲスト 若杉 弘さん（新国立劇場オペラ芸術監督）

日本のオペラを育てる

小学生でオペラに目覚めた

青木 監督は、オペラにいつごろからご関心をお抱きになりましたか。

若杉 僕が小学校四年生のときに第二次世界大戦が終わったのですが、五年生のころに母に手を引かれて、帝国劇場に行つて、ブッチーニの『蝶々夫人（マダム・バタフライ）』を観て聴いたのが初めての

オペラ体験で、そのときにすっかりはまつてしまいました。こんなすばらしいものが世の中にあるかと。

幼いころからピアノを弾いておりましたが、僕が高校二年生のとき、一七歳で、当時、日本のオペラを引っ張っておられた藤原義江先生から、オペラのピアノを弾きにこないかというお誘いを受けて、それからずっと藤原歌劇団でオペラ公演のピアノ伴奏をしました。

よく世間の人が、若杉はマルチ人間だとおっしゃるんですけども、外交官だった父は、意外にも文化には音痴だったんです（笑）。でも、外交では会議の後の宴会でのトークが重要ですから、それを見ていた母が積極的に私を劇場や展覧会に連れていってくれたり、書物を与えてくれたりしたんですから、音楽だけじゃなくて、演劇、文学、詩歌、美術、舞踊がとも身近にあったんです。それが全部集まるとオペラになるんです。

青木 音楽の専門家は多くいらしても、監督がお育ちになったような環境は珍しいのではないですか。

若杉 なかなかないみたいです。学生時

代はずいぶんうらやましがられました。

日本人オペラ歌手は既に世界レベルに達している

青木 最近、新国立劇場の活動もありまして、オペラも少しずつ一般の人たちの間に浸透してきた感じがします。

オペラは日本にいますと、これまで接する機会がなかなかなかったのですが、戦後のこの六〇年以上の期間をみまして、実際に日本のオペラはどれくらい成長したのでしょうか。

若杉 たいへんな成長だと思えます。過去三〇年ぐらいで日本人のオペラ歌手の水準が抜群に成長して、それも一人や二人じゃなく、群をなして育っています。

青木 新国立劇場がオープンして間もなく、『蝶々夫人』に行つたんです。タイトルロールはみんな外国人だったんですが、わきの日本人の歌手が非常にすばらしくて、驚きました。いつの間にか層がかなり厚くなっているという感じを強くもりました。

若杉 ええ、そうです。一昨年は、日本人がヨーロッパのオペラを流用して上演

するようになってから、ちょうど一〇〇周年だったのですが、九〇年間は専用の劇場がなく、やっと国にオペラとバレエの専用の劇場施設をつくっていただきました。日本のオペラ劇場の歴史は、ヨーロッパの四〇〇年のオペラの歴史に比べれば、たった一〇年です。

今、いろいろと批判もありますが、一〇年の間の試行錯誤では、まだまだ……。青木 それはそうです。確かに。

若杉 やはり皆様に五〇年ぐらいのロングスタンスで見たいだいて、僕たちが一所懸命劇場の顔をつくらうとしているのを見ていただけるとありがたいと思います。

劇場が本当に育てなければいけないのは、オペラの指揮者と演出家です。そして、日本で新しくつくるオペラの台本が書ける文芸員がいなきゃいけない。その三つが劇場がなかったために育っていないんです。

青木 ヨーロッパの場合は、そういう方々が各劇場に専属しているということでしょうか。

若杉 そうなんです。これからの新国立

若杉 ええ。でもだんだん親しくなつて、みんなで、「いいぞいいぞ」になつて、チームができていった。

そのうわさで、今度はドルトムントの歌劇場の監督さんから呼ばれて、ストラヴィンスキーの『放蕩息子の歴史』をやらないかと言つてくたさつて、それをやら

若杉 ええ。でもだんだん親しくなつて、みんなで、「いいぞいいぞ」になつて、チームができていった。

とを覚えさせていたがきました。

青木 その後、ドイツのライン・オペラの芸術監督をされましたね。あの劇場は、どういう感じなんですか。あれで若杉つて名前が、世界に一挙に広がりましたが。若杉 ドイツで初めてオペラの劇場に呼んでいただいたのは、ダルムシュタットですが、初めての練習で劇場に行つたときからなにかそよそしい感じがする。どうしてだろうと思つたらば、合唱団のメンバーからオーケストラのメンバーまでが、「オペラ劇場一つない国から来た指揮者がオペラを振れるか。なんでこういう男と契約したか。劇場の責任を問う」と。でも二、三日練習に行つてると、「あなたけっこう知つてるのね」とか言われて……。

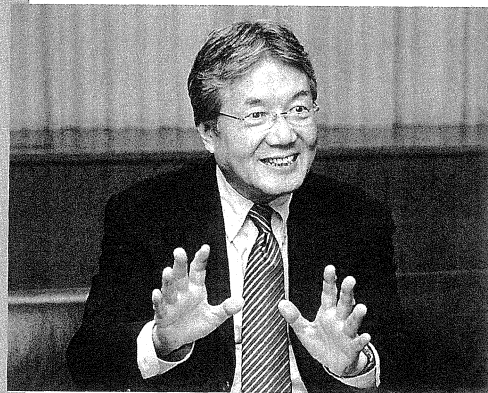
青木 オペラ劇場一つない国から来た男

とを覚えさせていたきました。

そうすると、ライン・ドイツ・オペラの総支配人が目をつけて、「今度はこっちに來ないか。監督をしろよ」と言つて呼んでくださったんで、一〇年間務めてまいりました。

問われる
コミュニケーション能力

青木 指揮者はオーケストラで最高指導者ですが、実際にはいろいろな楽器の専



青木 最初のリハーサルが大切ですか。

若杉 はい。初めのうちはそういうことはわかりませんでしたけども、何年か海外で仕事をするようになって、最初の一時間は僕の意見をいっさい言わないで、なししろ演奏させてそれを全部聴いて、休憩の後、これは直さなきゃならないじゃないかといろいろ、ざーっと分解掃除をやるわけです。そうすると、昼休みのときには、みんなこっちの味方です。

青木 「この指揮者はよくわかってる」となるわけですね。

若杉　やはり自分の強い意志をもった演奏力というんでしょうか、なにしろこは絶対こうあるべきだ、こうしてほしい、それは違うじゃないかということを明確に言うのと、そのうち納得してください、「さあウエルカム。次に何やりますか」と言ったださいいます。

門家の集まりで、誇りも高い音楽家ばかりでしょう。どうまとめていくのですか。

度量も試されて。

若杉 それはほんとに試されますね。

青木 どういう風に音だけでなく人を集中させていくのですか。

それはほんとに試されますね。

青木 どういう風に音だけでなく人を集中させていくのですか。

言うと、そのうち納得してくださり、「さあウエルカム。次に何やりますか」と言っ
てくださいます。

青木 最初のリハーサルが大切ですか。

若杉 はい。初めのうちはそういうこと

時間は僕の意見をいっさい言わないで、なにしろ演奏させてそれを全部聴いて、休憩の後、これは直さなきゃならぬんじゃないかといろいろ、ざーっと分解掃除をやるわけです。そうすると、昼休みのときには、みんなこっちの味方です。

青木「この指揮者はよくわかってる」と

劇場の使命は、どちらかというと日本の歌手は立派に育っていますから、オペラ専門の指揮者、演出家、文芸部員でオペラの台本が書ける人を育てるような仕事



わかすぎ・ひろし 東京藝術大学指揮科卒業。

読売日本交響楽団常任指揮者、ケルン放送交響楽団首席指揮者、ダルムシュタット歌劇場等を経て、ライン・ドイツ・オペラ音楽総監督、チューリヒ・トーンハレ協会芸術総監督・同管弦楽団首席指揮者、東京都交響楽団音楽監督・首席指揮者等歴任。

現在NHK交響楽団正指揮者、滋賀県立芸術劇場〈びわ湖ホール〉芸術監督。

東京藝術大学名誉教授、桐朋学園大学特任教授、日本芸術院会員。本年9月新国立劇場オペラ芸術監督に就任。

をしていかなきやならないと思つておりま
す。

第一回
芸術家在外研修員時代の
すばらしい経験

青木 若杉監督は、文化庁がやっております

まず芸術家在外研修員の第一期生として、昭和四二年（一九六七）にヨーロッパに行かれました。この在外研修員の制度は文化庁がもとと世間に誇っているものだと思いますが、監督が第一期生として行かれたと知ってその感を強くしました。今年は一四八人の研修員が世界各地へ派遣されます。

若杉 第一回目はたった四人だったんで
す。

そのときの選考の基準は、日本でその分野において、たいへん将来が楽しみないくつかの成果を上げた人間で、この人たちがもつと伸びていくために、海外の専門の機関で研修することが望ましいということをつたわれていた。今のように学生が応募して、優秀な卒業生だからというのですぐ行けるような段階じゃなくて、

日本でいくつかの美りのある仕事を上げた若者と言うことが条件でしたので、その当時選ばれた四人は、日本で実力を発揮した人たちだったんです。

その当時から、私はオペラの専門の指揮者になりたい、日本では育ててもらえないからということ、まず、ベルリンのドイツ・オペラに六か月間、その後すぐにミュンヘンのバイエルン州立歌劇場に六か月お世話になりました。両方の劇場とも文部省(当時)の書状があったので、聴講座員という札をもらえていつでも劇場に行つて、どの練習を拝見したいと言つても、全部フリーパスでした。

青木 それはすばらしいですね。

青木 それはすばらしいですね

若杉 ある目には、「君、勉強に日本から来てるんでしょ」と。そうすると、学生なのに、ゼナリユリナチさんとか、フィツシャーディースカウさんといった一流の歌手を相手に、一緒に指揮をさせてもらったりしました。

らったりしました。

青木 本当に理想的な研修でしたね。

若杉 日本の国の文部省が派遣した人間だといったら、それは大事に、とても丁寧にしていただきまして、たくさんいいこ

若杉 最初に聴いちやうほうがいいですね。最初から僕はこうしたいんです、なんとかですと言っただけでなく。

青木 でも、いろんな国のそれぞれ違ったところで、おやりになるわけですね。共通のコミュニケーションの方法はあるんですか、言葉も含めて。

若杉 僕が間違えをおかしてもちゃんと一つひとつ教えてくれる。そうやって一緒に構築していくから、最後にはとても仲のいい、理解し合った演奏ができる。

それは技術でもない、音感でもない、肉体的な背丈容姿でもない。何か口で言えない、人と一緒にコミュニケーションをとって、何かを生み出していくということですね。

青木 指揮者は、全体の人間関係、一種の社会をまとめる力が求められますね。単なる技術だけとか、知識だけではないんです。例えば、オペラですと、いわば総合芸術ですが、どのようにまとめられるのですか。

若杉 まずは舞台上に立って演じ歌う方々と、音楽をじっくり練習します。そこで少なくとも舞台上に立たれる歌い手と指揮

若杉 新国立劇場の一つの大事な仕事は、そうやってオペラ劇場を知ったオペラ指揮者が育っていくことです。

劇場を育てるには 観客の力も重要なんです

青木 オペラの人材では、三つの分野がまだだということでしたが、それ以外に観客の養成も必要ですね。

若杉 それが今日絶対に僕の意見を聞いていただきたいと思っていたテーマなんです。

これまで一〇年間の新国立劇場のオペラ上演の歩みを、僕も客席で聴衆として体験してきました。予告に、上から四つの大事な役に、カタカナの名前が並んでいる公演と、漢字の名前が並んでいる公演とでは、入場率が九〇%と六五%ぐらい違うんです。

ということは、日本のオペラ劇場にオペラを観にこうと思ってくださるお客様方は、どうせ二万六〇〇〇円払うんだつたらば、外国人のほうがいいに決まっていると思っておいでになる。

青木 西欧崇拜というのは、特に西洋音

者との間のコミュニケーションはできて、どういう音楽を演奏するんだという方向が見えてきて、そこに演出家が来られて、歌い口の注文も出ます。それを演出家と一緒に舞台がなるべく立体的になるようにつくっていく。

だんだんにお芝居の稽古が進んだときに、舞台美術や衣装を決める段階になってくる。「ちよつと待って、何さん。そのひだのたくさんついた長いスカートをはいてこの階段を登っても、さっきのテンポじゃ間に合わない。だから、先に三段上がったおいてから、歌い出してください」と。

青木 それも指揮者がちゃんと見ておかないと、勝手にやらしたらドタンとひっくり返っちゃいますね。

若杉 そういうことまで見てあげなきゃならない。

それはでも、一七歳のころから藤原歌劇団をはじめとして、オペラの裏回りで学んだことなんです。

青木 だからわかるんですね、それが。そういう指揮者ってなかなかいないですよ。

楽についてはまだまだ強いですね。

若杉 そうなんです。聴衆の方々の意識改革も新国立劇場を立派に成長させる大事な要素で、聴衆の方々も一緒になって劇場を育てていただきたい。それは本当に切に願います。

青木 観客のマナーとか、服装については、オペラハウスとしては何かご注文がございいますか。

若杉 僕はありません。三階席じゃない、一階席中央でもジープンでいらしても……。

青木 そういうことにはあまりとんちやくなさらない。

若杉 考えません。ザルツブルクですとつまみ出されちゃいますけどね。

青木 いや、それはまた厳しいですね。

若杉 それよりも、聴いてくださる気持ちで会場に来てくださる方が大勢いらっしやることのほうが大事だと思います。

青木 たいへん興味深いお話を伺うことができて、一段とオペラパレスに行く楽しさが増えました。どうもありがとうございます。

青木保の

カフェ・アオキ



文化交流の街 イスタンブール

イスタンブールへ行っただけは一九九四年夏が初めてだが、すっかりこの街が気に入ってしまった。ボスホラス海峡を挟んでアジア大陸とヨーロッパ大陸が対峙すると俗に言われるこの大都市の位置する地形は確かにすばらしいし、ミナレット(塔)をいただく壮麗なモスクの点在する街の景観も見事には違いない。

しかし、ここはなんといってもチャイハネ(茶店)の街なのだ。いたるところに茶店がある。歩いていて疲れると街角の茶店に入ってやすむ。トルココーヒーかお茶、小ぶりのカップで飲むコーヒーはそこに粉が沈殿する独特の入れ方、またお茶も透き通った小さなグラスで飲む。市内の小高い丘の上にあるカフェは、この街を愛したフランスの作家ビエール・ロティの名前が付いている。

トプカプ宮殿の宝物展示館には中国の青磁の中に、際光彩を放つ陶磁器があ

り、何かとみれば我が古伊万里であった。日露戦争勝利の日を忘れない街でもあり、中東の要衝であり、ロシアと中央アジアとは独特の深い関係をもつ。東欧は隣国であり、EU加盟を悲願とするイスラム国だ。この住民にはこれまた独特の国際人が多い。国際シンポジウムの後のパーティーでは英語で話していたトルコ人学者がフランス人とみるとフランス語でドイツ人と会えばドイツ語でと自在にことばを操るさまに目を瞠ることがある。このボアジチ大学日本近代史の碩学エチエンベル教授が嘆くのは、どうしてイスタンブールに「日本文化センター」のような対外文化機関がないの、みんな日本に関心をもっているのに。ヨーロッパ諸国はみんな文化センターを設けていて、そこを拠点に効果的な文化交流の輪を広げている。文化センターがあれば親日・知日スクールができるのに。トルコ初のノーベル文学賞作家オルハン・パムクは、イスタンブールは「憂愁の街」だと言う。夕方、ガラタ橋に立つて小高い丘に展開する街を眺めると、この古い街の東西の文化交流の記憶がよみがえってくる思いに打たれて呆然としてしまう。

◆長官対談◆

【文化の交差点】青木保文化庁長官対談
瀬戸内寂聴 作家
【長官コラム】青木保のカフェ・アオキ

◆特集◆

世論調査に見る国語意識

【文化庁提言】

【国語に関する世論調査】と国語施策

【座談会】

「平成一八年度国語に関する世論調査」
—情報化時代と漢字意識—
……内田伸子 関根健一・前田富祺・
松村由紀子・町田大輔

【資料】

平成一八年度国語に関する世論調査の結果

◆文化庁ニュース◆

文化財の新指定（美術工芸品3）
第五四回文化財保護強調週間
第五七回全国民俗芸能大会

編集後記

今月号特集「世界遺産への文化遺産の登録の推進」は、年々世界遺産の新規登録が厳しくなる中で今回の石見銀山の登録の過程を、紹介しました。
我が国において、今回初めてICOMOSの評価報告が「記載延期」となり、世界遺産一覽表への記載が危ぶまれる状況となりました。
このような状況により、マスコミ等からの関心を強く集め、ある意味世界遺産条約

◆連載◆

【いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート】
横浜美術館
【芸術文化の風】
日本映画グランプリ受賞 第六〇回カンヌ国際映画祭
【著作権Q&A】著作権なるほど質問箱から
インターネットと著作権 その2
【言葉を見つめて】
現代日本語の確立過程を調べる
【伝建地区を見守る人々 伝建地時記】
防災に強い町づくりを目指して 福岡県うきは市
【天然記念物の保護管理の現状】
平林寺境内林 埼玉県新座市
【広げよう「文化力」の輪！】
働く毎日をもっと豊かに！
【子どもの文化体験】
第二十二回国民文化祭・とくしま2007
【日本の伝統美と技を守る人々】
小林肇子（芸名山彦節子）・河東節淨瑠璃
【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】
仏像の衣文表現
【祭り歳時記 伝承を支える人々】
筑前朝倉の宮座行事
【文化交流使の活動報告】
大坪光泉・華道家
【文化でまちづくり 明日への文化振興ビジョン】
金沢市文化芸術振興プラン

文化庁月報 9月号（通巻468）

平成19年9月25日印刷・発行

編集——文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行——株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 編集 03 (3571) 2126
販売 03 (5349) 6666
URL : http://www.gyosei.co.jp

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円
年間購読料6,480円
本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
(株) ぎょうせい営業部広告課
電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)
©2007 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、
A 京都国立近代美術館
「カルロ・ザウリ展」2組 (ペア)
B 東京国立博物館
「大徳川展」2組 (ペア)
C 九州国立博物館
「本願寺展」2組 (ペア)
です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、9月21日(金)までにご投函ください(当日消印有効)。
※チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●
<http://www.bunka.go.jp>